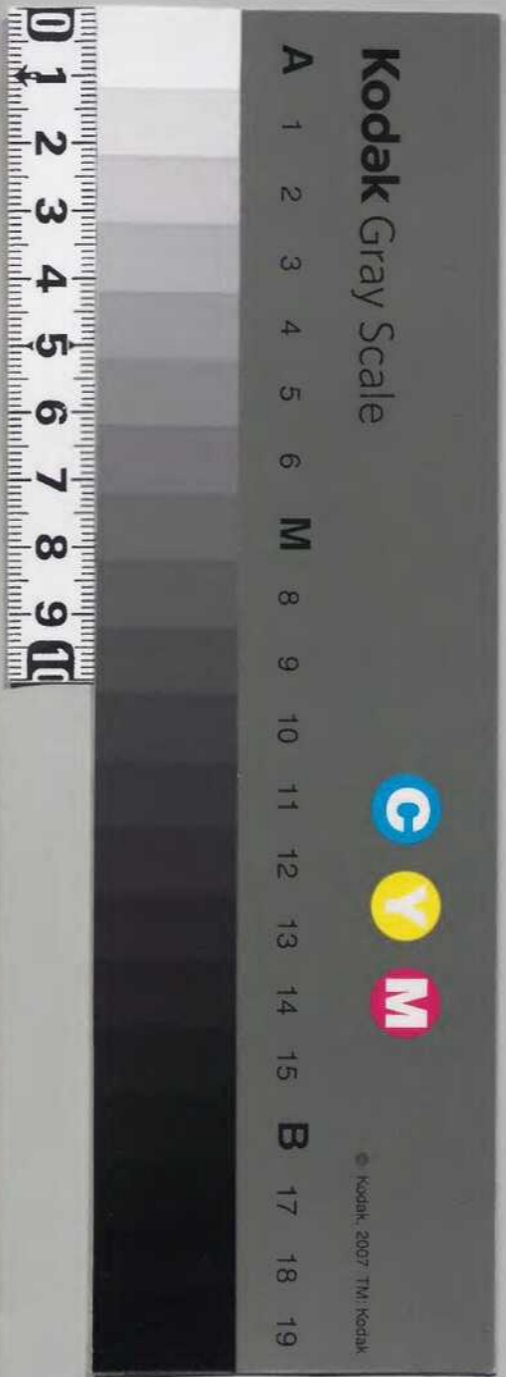


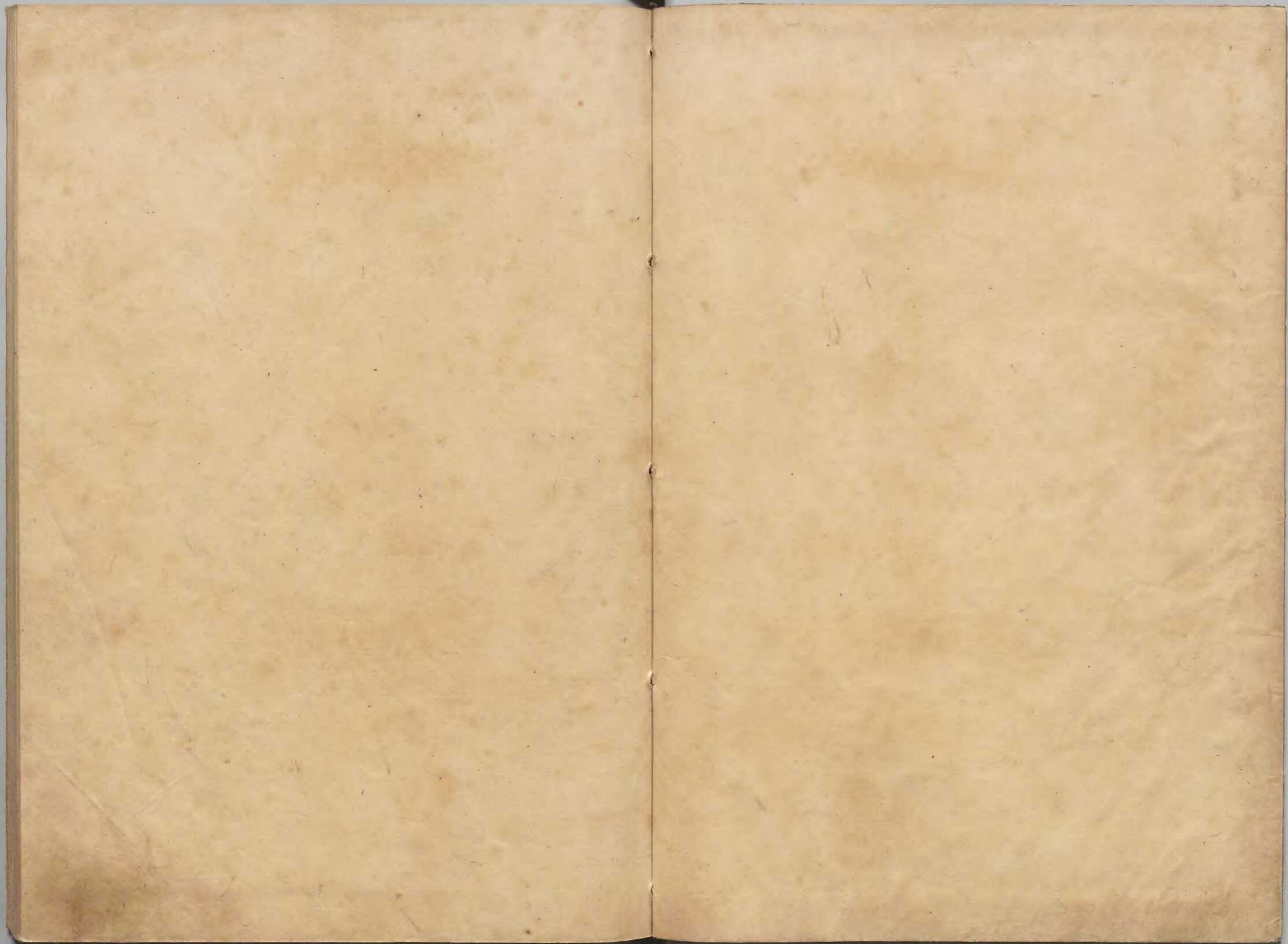
寛永諸家譜

支流 藤原氏癸廿五冊之内十四

127

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 (127)
函號	特 76 1





之宅  
之楊  
之神  
万年  
武苑  
高城

之木  
角南  
之田  
藤原  
矢鴻

寛永諸家系名傳

藤原氏

癸十日

支流  
之宅

淺草文庫

家傳といふく先祖を備前此児嶋  
より古友子太師友子次師友子之師  
兄弟之人れり今有りいそり  
九百年みよふ友子之師之別  
賀茂の部 廣津の部 又 括伯と

隼人正其苗裔なること

来

隼人正 中園之河内必 梅坪を領す

天文十六年 織田信長軍を以て

梅坪の城を攻めし 隼人正 城を

逃去 岩瀬山より 出張して 戦死

す時より六十之歳

来

右近大吏 中園目前

梅坪を領す

政貞

友方衆の尉 中園目前

梅坪を領す

隼人正 岩瀬山より 討死の時

政貞 戦場より 父が仇を討捕す

賤ありてのち信長政貞兄弟共  
山よりまじく勇名ありて申をき  
葦毛の馬たまひり鞍皆具等を  
あふも後信長政貞を麾下  
属せしめん水と云れども辞して  
はるりにて  
永禄元年之別駕侍りしをひく  
嫡子康貞と名けり  
東照大権現よりいへり

天正十五年遠別溪松よりまじく  
死し七十歳

重安

氏米少輔 中園回前

十八歳ありて

大権現を降し

治をかりゆり遠別よりまじく力

六騎をあげり 二十五歳ありて

死し 法名秋岸

是親

源右衛門尉 廿四回前

永祿五年十八歳乃とき毫別

演松よりをひく

大権現を降し〜まはるる後

物さかす姉ら武別 廿月

とひて与力六騎 且物二十人

をわし〜

寛永四年六月廿五日死  
八十三歳 法名亀海

壹勝

中七郎 廿四回前

天正十六年十六歳の水き毫別

演松よりをひて

大権現を降し〜まはるる

考長十六年

右德院殿の御命を仰り御り水使番

と侍らむ

元和四年八月十六日十六歳にて

死す 法名切山

重吉

半七郎 中園武苑

元和四年七月十五日十二歳にて

右德院殿を侍りしと云ふ

重正

寛永十六年十月十七日

將軍家の嚴命をうけしと云ふ

小十人組の番頭と云ふ

傳左衛門尉 中園回前

寛永九年八月十九日

將軍家より侍らるる

重貞

増之助

生國同前

寛永十三年十二月朔日八歳にて

將軍家を降して

康貞

也右衛門尉 之別梅坪

永禄元年十六歳の時父政貞

とちりく之別墨崎

大指現より之川に涉渡

の字を之と改して康貞と号す

且又物命をうけ之と改し高橋

吉良末冬河遠別の士と力三十餘

騎をあり

同十年の別合戦の時其作可

として首級を討ちし其時康貞

十八歳なり



同十一年遠州備前合戦の時

大権現の御をうけとらるる高井新右衛門尉

はあはれく先手とれり此時康貞

は五力十二騎我死と

或田信玄遠州久野の城を築時

大権現の嚴命をかりしゆり植村お羽守

とあはれくか場とれり

天正三年之別長瀬回年諏訪原

同四年高天神等の合戦は嚴命

とうけと後つら高井新右衛門尉と一平  
あはれく軍忠をうけまは

同十年甲州合戦乃とき高井新右衛門尉

水野忠を承るるびし康貞忠助に

いふこのゆき康貞軍回をまけ

まは

大権現の御を感しそまは康貞が武

勇拔群なり水の治をかりしゆり

同十二年尾州長久平合戦のとき

内蔵之左衛門尉大沢左衛門作中安  
兵部少輔なるべし康貞

大指璉の爲命をうけつ後り尾羽

清須乃城書を託せしとあり

作とありゆり安永後藤水回國

馬田の城了るじき水書を託せし

同十八年小田原陣のとき嫡子康信

とあり

大指璉も供奉

文禄元年朝鮮陣のとき康貞は  
戸乃爲自ら託せし

慶長五年奥羽陣のとき

大指璉了るしあり

同年関原陣のとき康信とあり

遠州横次が城書を託せしとあり

嚴命をうけつ後り磯羽山

書を託せし

元和元年之別衣村を以て死

七十二歳 法名洞心

果

源次兵部尉 牛國之河

大権現より此のうらまへ

元龜之年遠別之方原合戦より

供奉

天正三年之別長篠なるべし

小山原訪系等の合戦より

ふしとくま川日毎夜高名と

時又十六歳なり

同十二年長久手合戦より之級を

得たり

参上長四年伏見よりをひて死

四十歳

正勝

源次兵部尉 武州江戸より

十五歳乃水より

名徳院殿より之へて之へて

正忠

赤十郎 廿四日

十六歳のとき

將軍家より之へて之へて

廣勝

与兵衛尉 廿四日

大指現より之へて之へて

六十と歳より之へて之へて

勝重

与左衛門尉 廿四日

名徳院殿より之へて之へて

正次

赤九郎 廿四日

慶長二年

大指現了了此之勢よく海川を

同五年関原沙陣も供養

同十九年駿河よとて死せし

之歳

長利

大兵衛尉

中園山城

大指現

右徳院殿

將軍家了了勤仕了了ま川了

康信

越後守 中園遠江

文禄元年船陣のゆき

大指現了了供養

慶長五年奥州陣も父と供養了

了了かひ了了ま川了

同十九年大坂陣のとき、播磨の  
城番を任せしむ

元和元年大坂再陣のとき、康信、康盛  
に、仁候保兵庫次、  
命を

うけし、後、しらく、侯の沙番を任せしむ  
同二年伏見を以て、  
命をかり

御り、後、五位下より叙せ  
寛永十年九月、播磨、岡山、の城より  
をひく率と、  
法名、守廣

康政

惣右衛門尉 駿府より

身長七寸、康政十四歳のとき、  
城別伏見よりを以て

大指規を洋し、  
同十四年、沙勒氣をかり、屏風

より事、十年、  
元和四年、

在、徳院殿より、

同六年 仰又よりく所書院番を  
侍とむ

康永

内苑助

之州衣村又生於

寛永十二年十月六日

將軍家を侍ししに  
所書院

番を侍中とむ

具

左兵衛尉

康廣

友三郎 中園氏流

寛永十六年十月四日

將軍家よりついでに  
御二九日

作と疾又嬰少  
進侍とらむ

とむ

同十九年

仰又よりて所書院番を

侍とむ

某

九条兼尉

康盛

大膳亮

中園茂茂

大指現

右徳院殿又は之へては之れは河内大坂西  
の陣陣より父康信と申すは之れは後  
之れは之れは之れは之れは之れは之れは

將軍家又は之れは之れは之れは之れは

寛永三年八月京都又は之れは之れは

嚴命をかり申すは之れは之れは之れは

康重

大学 中園冬河

寛永十二年九月

將軍家を降しては之れは之れは之れは

之れは之れは之れは之れは之れは之れは



康勝くわうしやう

年人ねんじん

廿四にじゅうよっぴ

寛永十二年十一月

將軍家しやうぐんけ 湯ゆ 一いち 二に 三さん 四し 五ご

家紋

輪寶りんほう

之宅

● 重政

勅次郎

中園之河法名道雲

重勝

市左衛門尉

中園同前

長十年了死

法名玄西

重次

七兵部尉

十四武苑

初之水野甲斐守が許あり

寛永四年甲斐守が奏者をのり

右徳院殿より添謁

右軍家より之より

家紋 瑞寶

之木

● 直頼

大和守 中園 龍源

龍川の園司

良頼

石兵衛 信

飛川の園元 法名雲山

自綱

姉小諸大納言 飛川園元

天正十三年飛川没落時より浪人

となりて京都より伯父

同十五年四十八歳ありて卒す

法名休安

伯綱

十兵衛尉 中園飛孫

慶長十九年大坂陣の時

右徳院殿より降参す

元和九年

將軍家よりけしきりし

寛永六年五月江戸より入る

歳五十二

春網

八左衛門尉

牛園山城

寛永四年

將軍家了付之

家紋

劍菱

● 信久

之檣

友十郎

世國之河

小條氏政又所之小田原より

死に 法名常安

信次

但馬 相列小回原より

小條氏重より

小回原没落あり

東照大権現 本多丹下をより

おされ 沙鷺師より

文禄元年名護屋陣より 徳寺の時

為命より 津物より

盛勝

沙鷺を色水じそのち毎歳地

のち元二十五年なり

元和三冬秋回より 死と二十九

歳 法名源心

若七郎 中園回 法名東悦

小條氏康より



感忠

友兵束尉 中園回前

小幡氏政了了

小田急没落の候

大指現本多丹下を名何々筑

名護屋陣了供在と

名徳院敵

將軍家より之々々々

感次

寛永二年又死と 七十一歳

法名道慶

藤七郎

武州江戸又生

名徳院敵

將軍家了了之々々々

信勝

但馬 相列小田原より

大指現より湯へ

陣よりびり大坂河津等

その

名徳院殿

將軍家より

信次が遺職を

津持より

信吉

九左衛門尉 中園回

大指現

名徳院殿

將軍家より

信宗

平十郎 武別江戸より

大権現

台徳院殿

將軍家より此の寺に奉りて

信清

市郎右衛門尉 武別 寛永十一年

寛永十一年

將軍家より此の寺に奉りて

信重

六右衛門尉 武別 寛永十一年

台徳院殿

將軍家より此の寺に奉りて

家紋 丸の内白兔



之橋

● 長富

と次古東門尉 中園之河

東照大権現の御先祖えいぞうこのころこころ水代みづしろ

いつくしくりし

長成

右者

中園回前

大権現了 所人々々々々川日 鉄炮

とれり

成次

右兵衛尉

中園回前

大権現

右徳院殿

將軍家より之々々々川日

成久

九左衛門尉 後七郎右衛門尉と云々

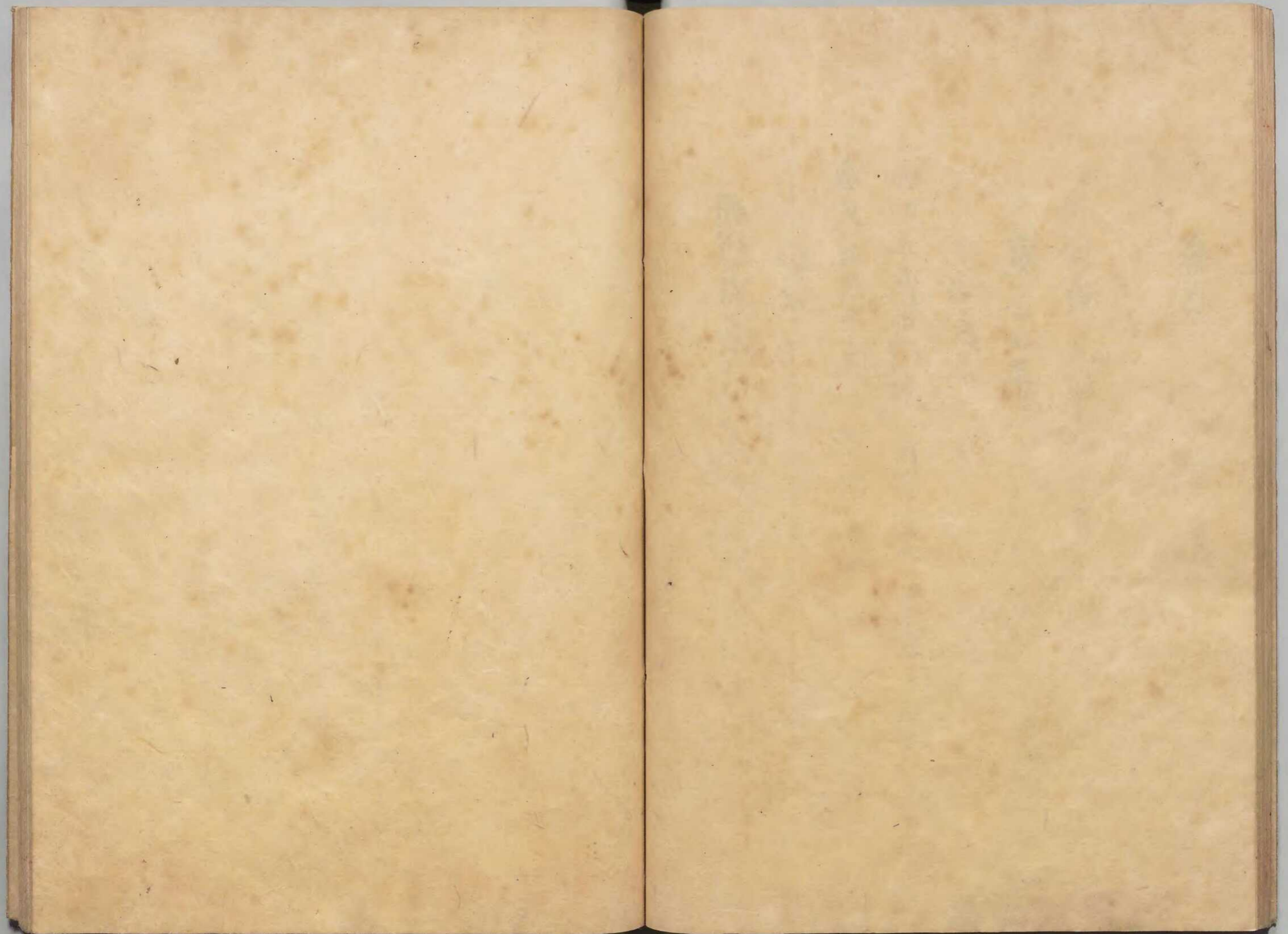
中園氏院

寛永四年

將軍家より之々々々川日

幕紋

丸の内之界



正廣

之橋

与次右衛門尉 卷河之橋  
廣忠卿了

正次

檜右衛門尉 中園日記



東照大権現

台徳院殿

將軍家より侍之りてまはり給

寛永十一年七十七歳歿して葬せ

正成

次郎八郎 七回武苑

家紋 丸の内三昇

● 果

角南

新五郎

中回俊中

天正十九年十一月

形部

口

了

叙せ

長九年

東照大指現又湯

同十四年七十二歳歿して死す 法名  
怒慶

重勝

白馬 中園後前

寛永五年二月四十六歳行して死す

重國

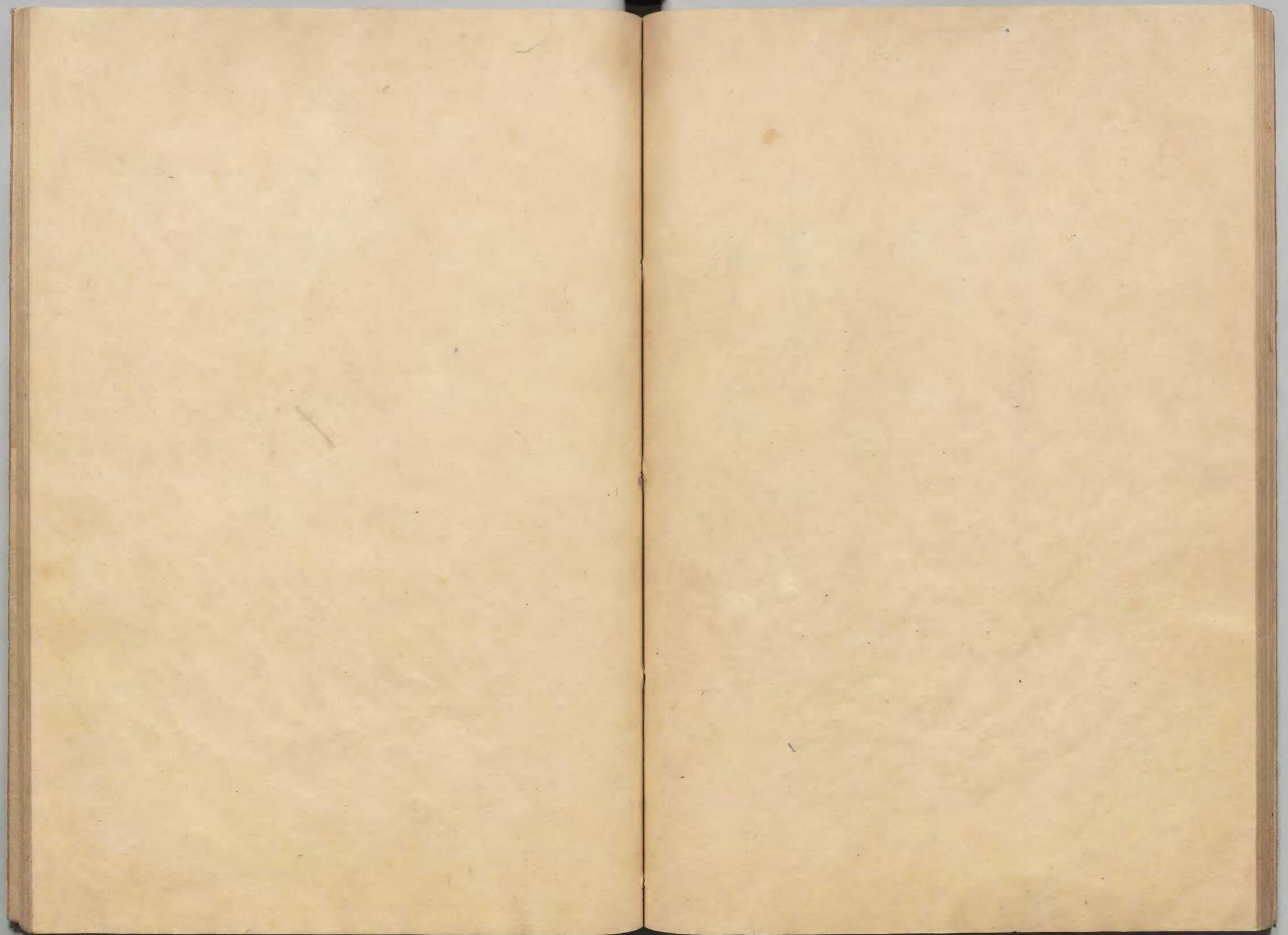
白馬

慶長十九年山城より生る

寛永六年父が遺詔をこま

日八年 沙書院番をばとむ

家紋 角折菱の内よ一文子



義久よしか

搦左束の射

廿四回前

法名道香みちか

信久のぶひさ

搦左束の射

廿四回前

法名松清まつきよ

武田信玄たけだのぶひさ了しる

之神のかみ

信玄えんのまゝに又勝頼かつらより

天正十年

東照大権現甲州沙入園のまゝ

出されし

名徳院殿

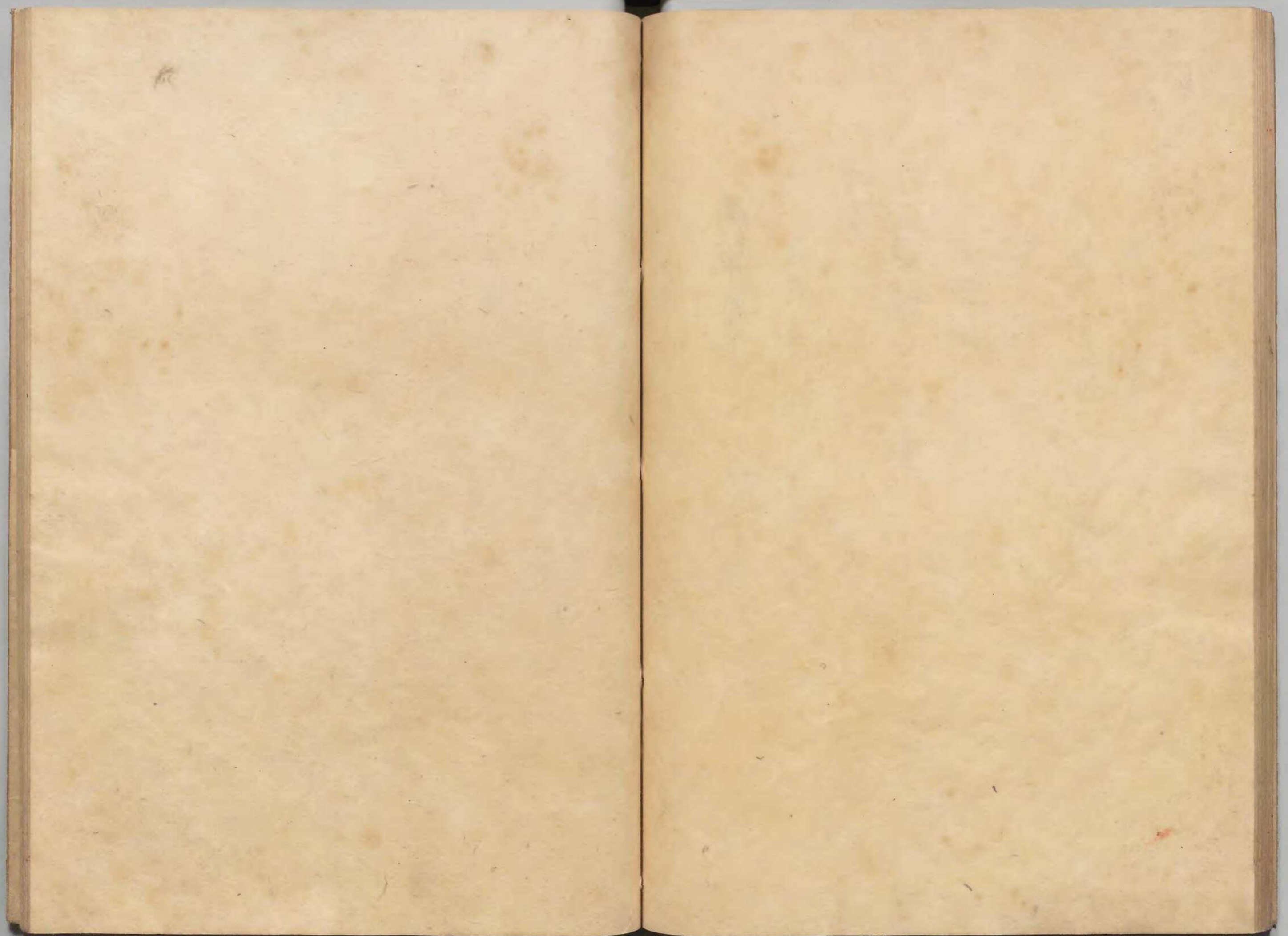
安信やすのぶ

市左衛門尉 中園同前

名徳院殿

將軍家より

家紋 之甲のよろ



之田

● 政忠

歿六節 生國冬河

東照大権現了了流之々々々々

三十一歳母了了死也

法名龍徳



改定

小左衛門尉 中四遠江

右徳院殿又流之々々々々々々々々大坂

少陣了信也

四十二歳ありて死す

信濃源

正者

小左衛門尉

中四遠江

改定をいふして子と云ふ實を竹本

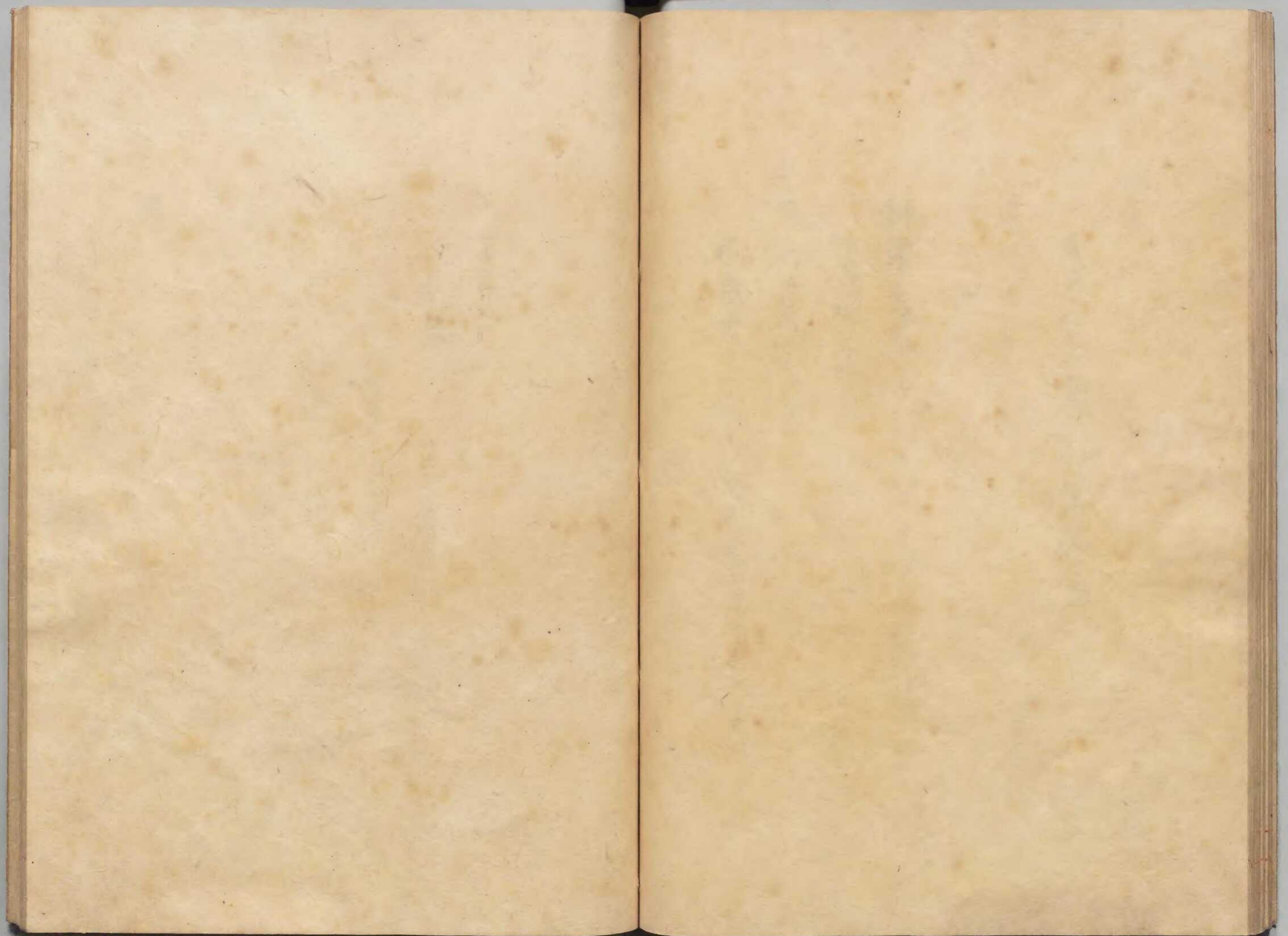
松本と云ふ子あり

寛永十一年より

將軍家より流之々々々々々々々

家紋

丸の内鳩鵲草



心勝

七高太夫門尉

中園遠白

万年

家傳いさく 後鳥羽院乃御宇  
文治年中 万年の号を宣下  
されし御劔をさすまふいまに  
いさく下持と

東照大権現よりさねくはくはく

より相別よをひて沙代女を

所中

慶長十一年六月十六歳ありて死す

法名成院

高頼

七島右衛門尉 牛國回前 法名成安

遠別候松よりをひて

大権現よりさねくはくはく

國のより志しおひくはくはく

代女を所中め相別よをひて屋

女を所中め

高頼

所中 牛國相模

めさねく

名法院殿よりさねくはくはく

慶長五年大沙苗をばす

寛永四年大坂河套を討つ

正秀

佐左衛門尉 中園同前

寛永十年あさね

將軍家より侍之りて侍川日大

河套を討つ

同十五子食禄とす

久頼

七郎右衛門尉 中園遠江 法名成実

大指現天下一統のとき久頼年久し

侍之りて侍河套の討 歳命を討つ

あり遠別榛原よりをひて河代友

を討つと河代友を討つ

高頼

之左兼門尉 廿四日前

駿河大納言忠長卿且比之榛原に

とひて代官を比とせ給

寛永十年又川尻村より

代官を比とせ

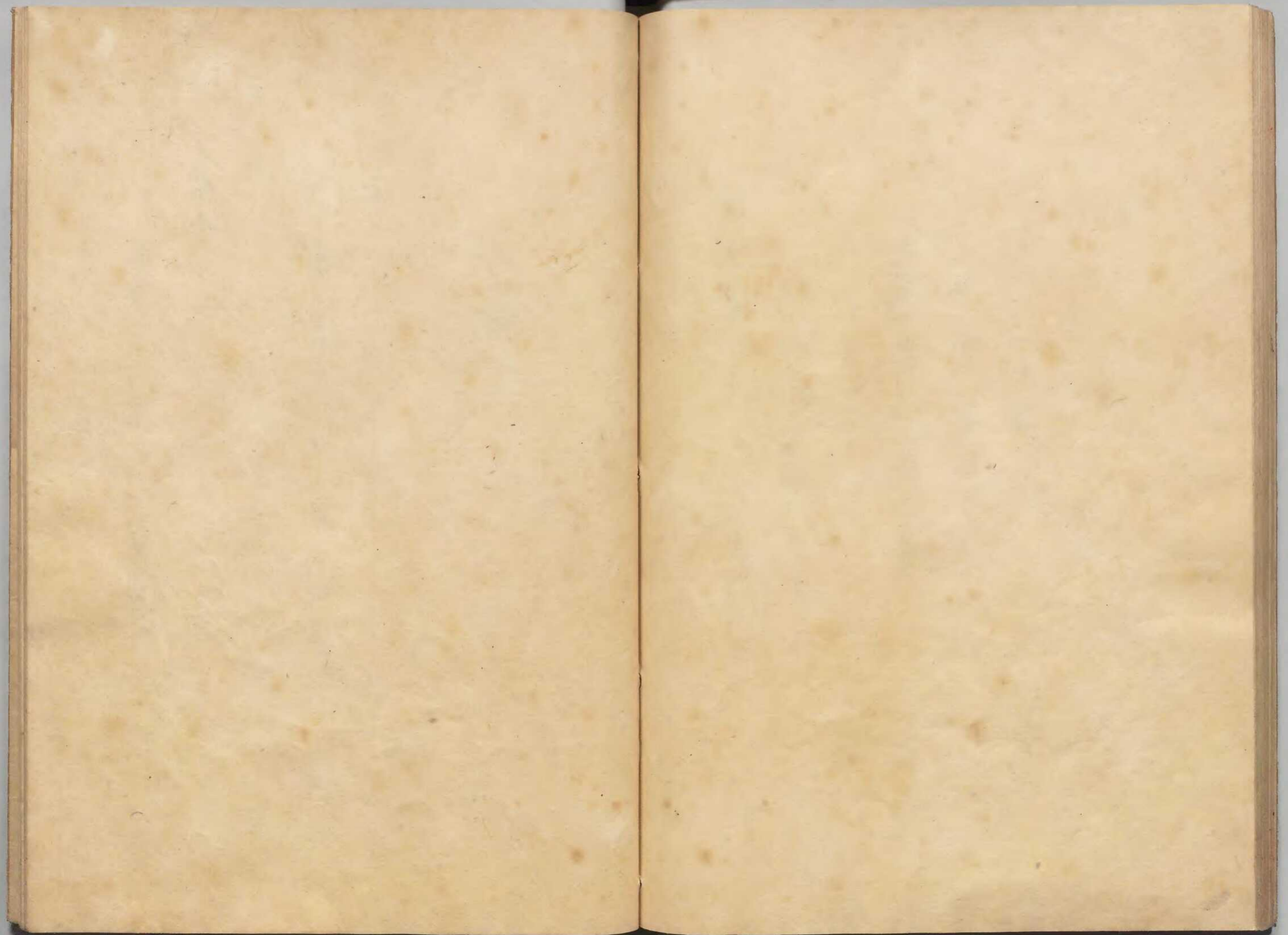
同十五年涉物宮より

名津院殿

將軍家又比之川

高頼の家紋 梶木鳩

正秀の家紋 桐葉鳩



● 某

奥山ウチヤマ左サ末マシ門カド尉ヱ 法ホウ如ニョ海カイ連レン

藤フジ瀬セ

重シロ吉キチ

平ヘイ右ウチ末マシ門カド尉ヱ 生ナマ國クニ遠トホ江エ  
今イマ川カハ義ギ元ゲン了リョウ了リョウ



名

江右東門尉 法名宗琳 生國同前

字別藤 遊を欲と為りしを

称号と云

東照大指現又此之云々

名次

江右東門尉 生國同前

名德院殿又此之云々

寛永五年五月廿九日六十歳歿

死也

名久

江右東門尉

名德院殿

將軍家より云々

直政

榊原作大丈 せ国武苑

丑の年よせ給ふまゝに藤原を  
あゝめく母の氏を續て榊原と  
称す

寛永九年めされく

將軍家を降し〜〜川を

家紋

丸の内橋

丸の内井桁

果

氏升武苑 本國伊勢多氣

武苑

本武苑 升武苑 伊勢多氣  
いしつりく 武苑 伊勢多氣

台正

孫左衛門尉 牛必同前

織田信長の孫にはりてはるる信人ともいはれるる

冬列の旨にはり居るるるの中にはり

つとれるる

東照大権現にはりけるるるも川にはり武苑

の稱号をもつまふ

慶長十年にはり死す

集

孫丞 牛四同前

二十一歳のときつとれる

大権現にはりけるるるも川にはり

台正中にはり武苑の稱号を

たまらるる

大権現武田信玄と數夜の合戦の

時をもつく軍四あり

元龜三年の方原の合戦より

敵をうちとけそのうへ瀨松彦格  
よきしこ敷多れ敵を射倒て  
ありぞくこのゆき武苑孫座  
也矢月書くゆり人  
ふれをーきり  
天正十二年長久手合戦り  
後急忠右衛門とあつてす  
て高名をえし  
慶長五年

大指現伏見の城り入涉のゆき  
嚴命をうけしゆら先延とあり  
果

武苑 遠別瀨松彦格  
右陸院殿了之ゆき

秀貞

孫五 世國同前

七歳のときさうらう

將軍家より賜へり

右勝

基五兵衛尉 中園冬河

右徳院殿より授へり

元和元年牧野内匠頭信成継り

つらなる大坂陣より

首級をえり

寛永三年より死す

右次

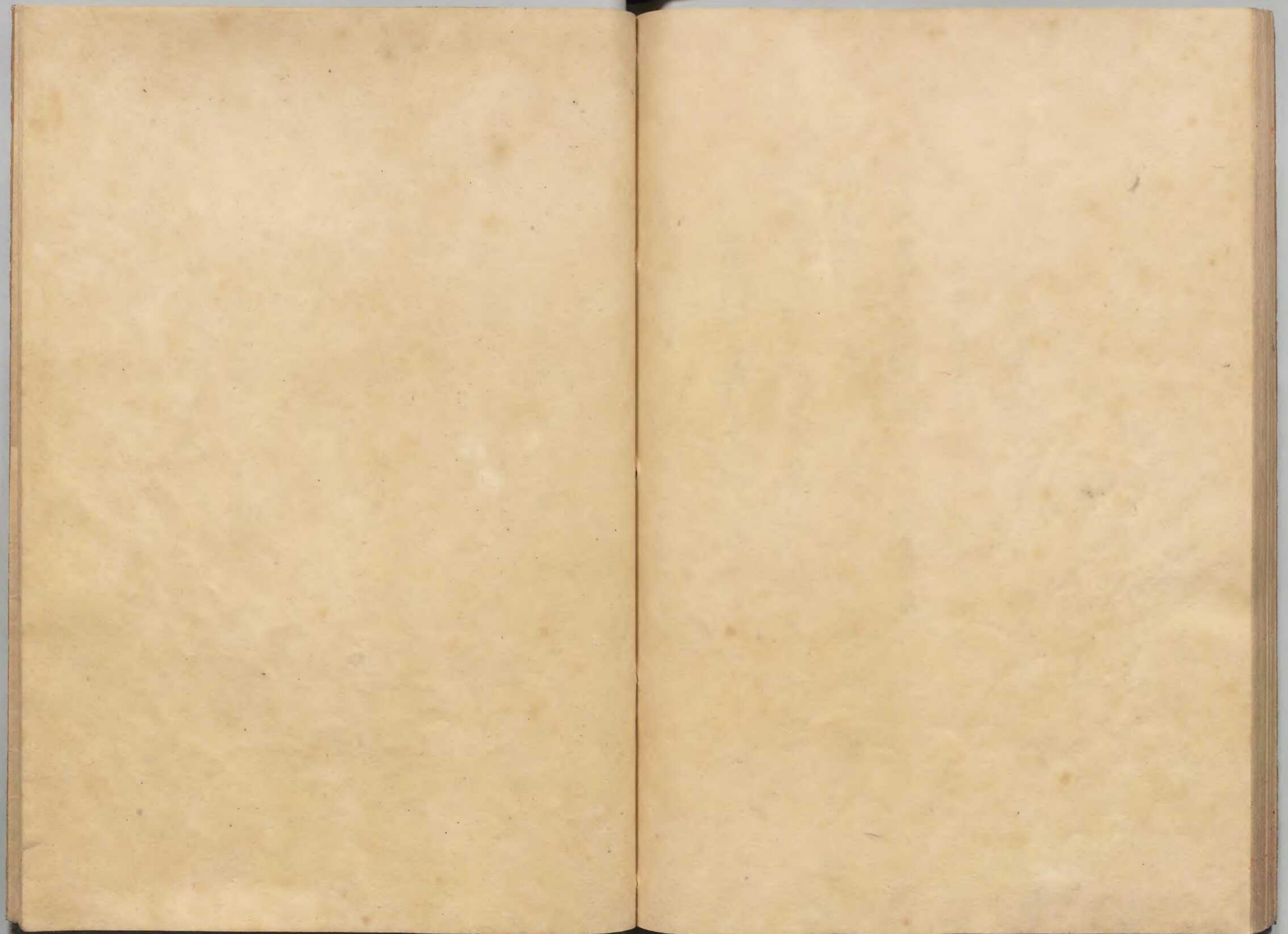
基五兵衛尉 中園武苑

寛永四年

將軍家より賜へり

家紋

右羽織



●  
寛久

矢鴉

勅旨来り射 廿四日

初之有浪小大眼

慶長七年

東照大権現

御命をうけとて



の沙塚番を以てし

六十五歳ありて死す

法名宗徳

定利

次郎左衛門尉 中園上野

慶長十七年父定久が遺詔をつき

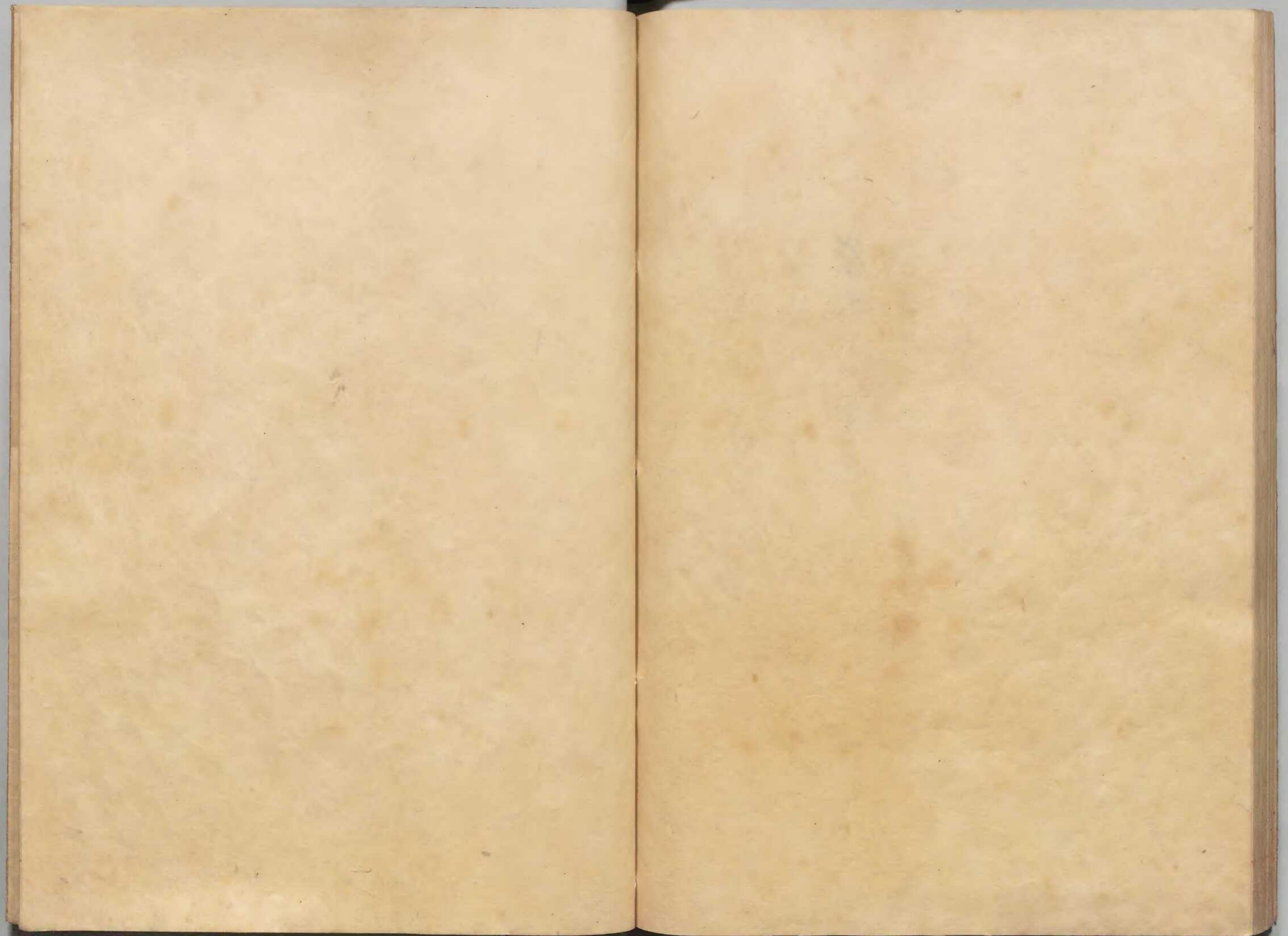
悉乃沙塚番を以てし

寛永十七年わさねく江戸より作

沙塚番の番を以てし

家紋

六連後



● 胤辰

下野

紀加ようま

高城

胤時

下野

中園下総

下総園小舎の城より

天正十四年又死と四十五歳 法名  
玄剛

源則

源次郎 中田回前  
叔代小令の城より居て十九歳の時  
相別小田原乃城より落城あり  
浪人と戦る秀吉後陣陣正少弼長政  
了命じて蒲守飛浮守了属せ

ら歌をみち

東照大権現かゝ爪隼人正と命じて  
つゞきありありありと病り  
かゝりては人々々々々々  
慶長九年八月七日二十歳ありて死

源次

徳右衛門尉 中田信徳  
元和二年伯父佐久間信成が奏を



